

－HCTC の実務経験に関する注意事項－

認定研修承認依頼書の「HCTC の経験年数」・「コーディネート件数」、事例支援報告書の事例については、以下をよくお読みいただき、正しく申告してください。活動状況によっては、経験年数や経験事例のコーディネート件数が、申告の通りには認められない場合もあります。

1. 認定研修承認依頼書[様式1]

【HCTC の実務経験年数について】

- コーディネートとは、所属施設外にも及ぶ個人、グループ、組織を対象とした幅広い移植前後に至る調整プロセスで、病棟や外来で行われている通常の看護や診療とは異なります。病棟や外来の看護師、患者やドナーの担当医日本骨髄バンクの調整医師などによる患者やドナーの支援は HCTC としての経験に含みませんので、ご注意ください。なお、通常の診療に従事せず HCTC 業務を専従職として行っている場合を除き、医師の申請は原則として認めません。
- HCTC 活動開始時期は、HCTC が移植チーム内に設置され、介入の際に HCTC であることを患者やドナー、家族に説明し、業務を開始した時期であることが必須です。活動開始時期が、認定講習Ⅰの受講申込書と異なる場合には、申請は受理されませんので、書類への記入時には十分にご留意をお願いいたします。

【HCTC の具体的な業務内容】

HCTC 業務リスト (jstct.or.jp)でご確認ください。

リスト内の業務は HCTC の網羅的な業務の一覧で、すべての業務を実践している必要はありません。ただし、認定 HCTC の必須項目については、HCTC が実践している必要があります。

<患者コーディネート>

- ・ 移植前／移植入院中／移植後の支援：意思決定支援、移植準備の支援、精神的・社会的支援、家族の支援、院内関連部門・院外機関との連携など
- ・ 血縁ドナーコーディネート
- ・ 骨髄バンクコーディネート：骨髄バンク登録説明・相談、骨髄バンク・採取施設との連絡調整など
- ・ さい帯血バンクコーディネート：さい帯血バンク利用の説明、さい帯血バンクとの連絡調整など

<ドナーコーディネート>

- ・ 血縁ドナーコーディネート：意思決定支援、採取準備から採取後までドナー家族の支援、院内関連部門・院外機関との連携など
- ・ 骨髄バンクドナーコーディネート：骨髄バンク・移植施設との連絡調整
骨髄バンクコーディネーターとの連携など

【自施設でのコーディネート件数について】

- 同種移植の症例に限ります。
- 1 事例 1 申請者とし、複数の HCTC からの重複報告は認めておりません。同一事例に複数の HCTC が介入した場合は、申請者間で相談の上、最も多く関わった HCTC が事例としてカウントし報告してください。
- 申込日時点で移植や採取が未来日となる事例は実務経験として申告できません。

2. 事例支援報告書[様式4, 様式5]

■HCTC 認定研修中に経験した患者コーディネート事例、（血縁・非血縁）ドナーコーディネート事例を認定資格申請時に実務経験数として申告する予定の研修者は、事例支援報告書を1事例につき1枚提出してください。

■1事例のうち、コーディネート過程の一部は見学であっても、その他の過程において研修者自らが直接介入しており、以下のいずれかの条件を満たす場合には、経験事例として申告することができます。

1) 患者に対して、移植適応と判断された段階での医学的説明・意思決定・移植準備・移植が実施されるまでに関わる支援のうち、移植前の医学的説明あるいは意思決定を含む、複数の過程のコーディネートを研修者自らが行った場合。

2) 血縁ドナー候補者に対して、HLA 検査前の造血細胞提供に関する医学的説明・提供に関する意思決定・採取の準備・骨髄あるいは末梢血幹細胞採取・採取後健康診断（他施設で実施された場合にはその結果の確認）に関わる支援のうち、提供前の医学的説明あるいは意思決定を含む複数の過程のコーディネートを研修者自らが行った場合。

■非血縁ドナーのコーディネートに関しては、採取前健康診断・骨髄あるいは末梢血幹細胞採取・採取後健康診断（他施設での実施も含む）に至るまで、全過程の支援を研修者自らが行った場合のみが経験事例として申告可能です。

■認定研修終了時に事例支援報告書の提出がない事例については、認定資格申請時に経験事例として申告することができません。

■認定研修において研修指導者の指導のもとで研修者が介入した事例については、研修者および研修指導者は、認定 HCTC 資格申請時や認定 HCTC 更新時等に経験事例として同一の事例を重複して申告することができます。

3. コーディネート事例について

■＜患者件数＞

- ・ 移植適応と判断された段階から介入し、意思決定支援や移植準備の支援（ドナーの準備や患者ニーズへの資源調整など）を行い、移植が実施されるまでの全過程を継続的に支援した場合を、全過程介入とみなします。
- ・ 移植目的で他施設から紹介されてきた事例の場合は、紹介を受けた時点から、上記と同様の十分な支援を行っていれば全過程の実務経験とカウントされます。
- ・ 移植に至らなかった、また、移植適応判断後の介入であった場合など全過程への介入が行われなかった事例の場合、十分な相談、支援が行われていればカウントとして認めますが、全過程介入事例とは認められません。

■＜血縁ドナー件数＞

- ・ HLA 検査前の提供に関する医学的説明を含む意思決定支援の段階から、採取前健康診断、採取の準備、幹細胞採取、採取後健康診断（他施設での実施も含む）に至るまでの全過程を継続的に支援した場合を全過程介入とみなします。
- ・ 以下の①～③の場合など、十分な相談、支援が行われていれば、カウントとして認めますが（なお採取を目的とする入院時からの介入についてはカウントできません）、全過程介入事例とは認められません。
 - ① 他施設ですでに HLA 検査が実施されているなどの理由で HLA 検査前から介入していない
（ただし、自施設でのコーディネート件数[様式 1]のカウントにおいては、自施設内に HLA 検査前の段階から HCTC が介入する体制が構築されていることが条件です）

【HCTC 認定研修】

② HLA が適合しなかった

③ 採取に至らなかった

- ・ 採取に至った血縁ドナーの件数をカウントする場合、ドナー登録している事例のみに限ります。

■＜非血縁ドナー件数＞

採取前健康診断から介入し、採取の準備、幹細胞採取、採取後健康診断（他施設での実施も含む）に至るまでの過程を継続的に支援した場合を、全過程介入とみなします。